別紙様式

取 組 名	小中合同避難訓練【地震・津波】		
特　　徴	小中連携，学校運営協議会・見守り隊・警察・保護者との連携		
学 校 名	岩国市立通津小学校	期日	令和3年6月25日(金曜日)

1　ねらい

教職員、保護者、地域が連携した小中合同の避難訓練を通して、地震により発生する巨大津波の被害に備え、全ての児童生徒の命を守るために、学校として最善の対策を立てておく。

2　概要

・職員会議、通津小中合同学校運営協議会での実施計画案の検討
・小中の学校運営協議会委員、見守り隊や通津交番の巡査部長、避難場所の介護施設「つづの里」の職員、保護者有志の協力を得ながら避難訓練実施
・避難場所で、通津中校長、通津中生徒会長からのお話
・実施後、保護者、教職員の振り返りアンケートなどをもとに職員会議、学校運営協議会で成果と今後の課題を協議
・危機管理マニュアルの見直し

【中学生・見守り隊・警察官・保護者に見守られながら高台に避難する様子】

【無事避難完了　生徒会長のお話】

3　成果と今後の課題等

＜成果＞

○　避難場所までより安全で早い経路や学校近隣の他の安全な避難可能な場所の検討などを地元の地理に詳しい地域の方々と共により多くの人で協議することができた。
○　避難訓練にあたって、保護者、地域、通津交番の巡査部長、「つづの里」職員にお世話になり、交通安全に気を付けながら事故や怪我無く訓練を実施することができた。
○　実際に全校児童が訓練をすることで、所要時間、安全性、児童への負担度などについて学校教職員、地域や保護者とも共有することができ、それをもとに危機管理マニュアルの見直しを行うことができた。（「つづの里」は3次避難場所とする。）
○　岩国市のハザードマップ、避難場所一覧を、教職員で再確認できた。

＜今後の課題＞

●　「つづの里」まで中学生は短時間で避難できるが、小学生全員が無事に非難するには時間がかかりすぎる。また、小学生にペースを合わせると中学生まで遅くなる。
●　避難経路が通津川を横切っていたり、土砂崩れの危険のある個所を通っていたりと「つづの里」に避難することによるリスクも鮮明になった。万が一の場合、児童生徒全員の命を守ることを最優先に考えると、校外の高台をめざすことより、まずは学校の校舎の2，3階や屋上への避難をする方がよりよいと考える。
●　季節がら大変蒸し暑く小学校低学年には体力的にかなりきつかった。「つづの里」への避難をする場合、体調が悪く徒歩での避難が難しい児童への対応について課題が残った。
●　小中学生が一緒に避難するメリットについて今後さらに検討が必要である。
●　本来予定していた「小中合同引き渡し訓練」は、コロナ禍で実施できなかったが、児童生徒を早く安全に確実に保護者に引き渡す訓練をぜひ小中合同で実施したい。

別紙様式

取　組　名	地域と連携した避難訓練・専門家等と連携した防災出前授業		
特　　徴	地区自主防災組織・幼稚園との実践的連携、専門家から学ぶ機会の設定		
学　校　名	周南市立八代小学校	期日	令和3年6月25日（金曜日）

1　ねらい

○　土砂災害想定の地域連携避難訓練を行い、危険が迫っている時の具体的な行動、自分の命とともに地域を守ることの大切さについて学ぶ。

○　防災出前授業を受講し、水害や土砂災害のメカニズムを知り、自分と大切な人の命を守るため自主的にできることについて考えを深め、普段からの実践に結びつける。

2　概要

(1)　地域連携避難訓練

・土砂災害（警戒レベル４）を想定し、指定避難所となる鶴いこいの里交流センターまで、八代地区自主防災組織の方と避難した。避難の際には、隣接する八代幼稚園や避難経路上にある近隣住宅に声をかけ、一緒に避難した。

・避難所で、自主防災組織の方から八代地域の現状、避難所施設長から避難所開設状況等の説明を受けた。

幼稚園児の手を引く児童

地域の方も一緒に学ぶ防災授業

防災リュックの中身を見学

(2)　専門家等と連携した防災出前授業

・地域ぐるみの学校防災総合推進事業を活用して東京海上日動火災保険から講師を招き、地域の方と合同の防災教室を開催した。

・映像を通して水害や土砂災害のメカニズムについて知り、防災リュックや避難関係用品の展示・説明を受けた。

3　成果と今後の課題等

○　地域と連携した避難訓練では、八代地域の自主防災組織の方からのアドバイスを受けながら行動することで、より実践的な訓練となった。実際に防災に関わっている方から現状や避難所開設状況などの話を聞くことで、早期避難の徹底、自助、共助、公助の大切さについて学ぶとともに、地域を知り、自分ができることについて主体的に考える機会となった。

○　安心・安全な学校づくりに向け、避難訓練や危機対応訓練などを、今後もより実践的な形で実施していきたい。また、学校での取組を家庭・地域に情報発信するとともに、学んだことをもち帰らせ、各家庭でも防災や避難等について具体的に話し合われるようにしていきたい。

別紙様式

取 組 名	合同避難訓練		
特　　徴	中学校・施設内支援学校・児童クラブと連携した合同避難訓練の実施		
学 校 名	長門市立深川小学校	期日	令和3年 7月 2日(金曜日) 令和3年11月 8日(月曜日)

1　ねらい

不審者対応の引き渡し訓練や大雨による土砂対応の避難など、様々な危機対応を想定した避難訓練を隣接する中学校や同施設内の萩総合支援学校長門分教室、また児童クラブと連携して行う事で、関係職員全員の危機管理意識の向上を図るとともに、協力して児童の安全を確保できるようにする。

2　概要

(1) 不審者対応・引き渡し訓練（７月２日）

・授業中、コミュニティホールに刃物をもった不審者が侵入する。
・小学校と分教室の教職員が、児童の安全を確保しながら、不審者を退去させる。
・下校中、不審者と遭遇の恐れがあるため、引き渡し下校を行う。

※不審者が退去後、校長は分教室教頭と対応協議後、引き渡し指示を出すという想定で訓練を実施した。
※児童クラブに行く児童は、コミュニティホールに集合したのち、児童クラブ職員に引き渡し、保護者は、児童クラブに迎えに行った。（児童クラブ職員とも事前に打ち合わせを行った）

「不審者対応の様子」

「引き渡し訓練の様子」

(2) 小・中学校合同避難訓練【大雨・土砂災害対応】（１１月８日）

・大雨により地域の川が決壊し、浸水の恐れが出てきたため、中学校への避難を決定、避難受け入れ要請を中学校に行う。
・要請後、分教室とともに中学校グラウンドへ避難する。
・中学校に到着後は中学生の誘導により整列し、人数確認を行う。

※新型コロナウイルス感染症対策として、今年度も体育館ではなくグラウンドへの避難とした。
※当日は、雨天のため小学校と分教室児童の移動のみの避難訓練実施となった。中学校は誘導担当の生徒のみが参加し、役割を担った。

「避難訓練の様子」

3　成果と今後の課題等

○　数年前からこのような避難訓練を継続して行ってきたことで、落ち着いて行動できるようになってきている。反省を生かし、改善を加えてきたことで、児童の安全の確保や連携の方法も向上してきた。

○　今後は、連携する対象を拡げたり避難訓練を行う前後の学習活動を工夫したりすることで地域の防災意識を高めることもよいのではないかと考える。また、教職員の異動など人が代わっても確実に避難ができるよう、マニュアルの点検や見直しをきちんと行っていく必要がある。

別紙様式

取 組 名	子どもと大人のディスカッション		
特　　徴	地域の方や保護者との連携、小中一貫した取組		
学 校 名	岩国市立岩国西中学校	期日	令和3年 7月 9日(金曜日) 令和3年11月26日(金曜日)

1　ねらい

防災に関わる内容を自分事として話し合うことで、地域の特性を生かしながら、地域の方とともに安心安全な生活を送る手立てを考えることができる。

2　概要

(1)　子どもと大人のディスカッション①

・参加者は、河内小学校杭名小学校5・6年、岩国西中学校1・2年、地域の方、保護者
・事前に、地域の方の講話を聞いて、地域で起こった自然災害について知る。
・「将来、豪雨災害が起きたとき、その時あなたは･･･？」というテーマで、５グループに分かれて、家庭や地域で自分にできることは何かについてディスカッションを行う。
・グループで出た意見を全体で発表し、意見交換をする。
・活動を振り返り、自分の考えを深める。

(2)　子どもと大人のディスカッション②

・事前に、過去に水害が起きたときの家庭での様子についてまとめる。
・「豪雨が続いているとき、あなたはどのように避難しますか？～いつ、何を持って、どこを通って、誰と、どのように逃げるか～」というテーマで、５グループに分かれて児童生徒がそれぞれの考えを発表する。
・グループごとに深めたい課題を２つにしぼり、小グループに分かれて話し合う。
・話し合った内容をタブレットにまとめ、代表者が発表する。
・活動を振り返り、新しく学んだことや次への課題をまとめる。

グループ別ディスカッション

小グループでの話合い

代表者による発表

3　成果と今後の課題等

○　２回のディスカッションを通して、児童生徒一人ひとりが「防災」のことを自分事として真剣に考え、発表することができた。
○　防災について、地域の方や保護者の意見やアドバイスから考えを広げたり深めたりすることができた。
○　地域の方とのやりとりや他校との交流を通して、子どもたちは新しい刺激を受けて視野を広げることができた。
○　３校が連携しながら取組を進めることで、子どもと地域、教職員との距離が近付き、学校や地域の一体感が育まれた。
○　生徒が防災について真剣に話し合っている姿を見て、地域の方から学校だけでなく地域の避難訓練も工夫して実施していきたいとの意見が出された。
○　防災については、時間をかけてじっくりと話合いを積み重ねていくことが大切だと感じた。将来、実際に災害にあったときはどうするか、中学生が主体になって行動できるように育てていきたい。
○　今後、新しい安全マップの作成について、いわにしネット協議会と協力しながら完成をめざしたい。

別紙様式

取　組　名	日置みすゞ学園を中心とした組織連携による防災訓練		
特　　徴	地震発生を想定、津波災害に対応するため、日置地区全体での小学校・中学校・市・消防本部・教育委員会が連携した大規模な避難訓練を実施した。		
学　校　名	長門市立日置中学校	期日	令和3年10月1日（金曜日）

1　ねらい

○　地震が発生したことを想定し、日置地区小学校・中学校３校と長門市の防災体制の連携強化を図るとともに、児童生徒の防災意識の高揚を図る。

2　概要

(1) 長門市で震度５の地震が発生したことを想定して、防災対策本部を設置する。

(2) 防災危機管理課と日置支所が連携し長門消防署へ連絡する。

(3) 日置中学校は、生徒・職員の身を守る行動を促す。

・机の下に避難指示、火気及び落下物の安全確認をする。
・職員の誘導で生徒をグラウンドへ避難させる。
・避難終了後、人員確認を行い、教育委員会へ避難状況を連絡する。
・初期消火体験①（消火パネル）
・初期消火体験②（バケツリレーによる消火活動）
・救助・運搬体験（応急担架作成・運搬）

(4) 防災研修（講話）
・みんなで備える防災活動について（長門市消防本部講話）
・災害対処について（長門市消防本部講話）

(5) 災害安全ＫＹＴ資料の活用
・家庭で地震発生ワークシートに記入し、今日の活動を振り返る。

「応急担架での運搬の様子」

「初期消火訓練の様子」

3　成果と今後の課題等

今年度も、日置みすゞ学園を中心とした日置地区のコミュニティで行われる災害避難訓練を実施した。地区２つの小学校、本中学校の児童・生徒が地震と津波を想定し、避難した後、日置支所、消防署、警察、教育委員会と連携し、合同で研修会を行った。今年度は「応急担架を作成」し、生徒の防災意識と自助・共助の視点から、自分たちにできることを実感できる貴重な体験となった。

写真のように、初期消火の大切さを確認する取組も大変有効かつ危機対応力の強化にも役立っている。今年度は、例年実施している『バケツリレー』をクラス対抗で全生徒が行った。急いでいるとなかなかバケツの水がねらいどおりに飛ばず、実践の難しさを実感した。ＡＥＤの使用と同様に、いざというとき実際に生かせるようにしていくことが課題である。

年に１回の合同訓練であるが、地域・家庭と連携して日々の教育活動に反映していきたい。

別紙様式

取 組 名	小中高および地域住民等との合同避難訓練		
特　　徴	地震と河川氾濫の複合災害を想定した避難訓練を、小学校・中学校及び高等学校合同で実施する。避難指示が発表され、広域避難場所である錦中学校に避難する途中、錦清流小学校の児童および地域住民等と合流し、低学年に寄り添って一緒に避難する。		
学 校 名	山口県立岩国高等学校広瀬分校	期日	令和3年11月30日（火曜日）

1　ねらい

○　地震と河川氾濫の複合災害を想定した避難訓練を、小学校・中学校及び高等学校合同で実施する。自分の命を守り安全を確保することはもちろんであるが、周囲の人の安全に気を配り、地域社会に貢献できる力を育成することを目的とする。

　また、地域の方々にも参加していただき、学校、地域の実情に応じた、より実践的な避難訓練を行う。

2　概要

(1) 桜木地区に地震と河川氾濫の複合災害の発生による避難指示が出たという放送を聞き、広高ステージ前で点呼後、広域避難場所である錦中学校に向けて出発した。

(2) 途中、錦清流小学校前の路上で小学生及び地域の方々と合流し、小学校低学年児童に寄り添い、自他の安全を確保しながら避難場所である錦中学校に全員避難した。

(3) 中学生は、避難した小学生、高校生および地域の方々を、運動場へ誘導した。

(4) 運動場で、小学生を小学校教諭に引き渡した。点呼、報告完了後、消防署職員より訓練に関する総括が行われた。

「小学生と一緒に避難する様子①」

「小学生と一緒に避難する様子②」

「消防署職員によるお話」

3　成果と今後の課題等

(1) 成果

　小学生は緊急避難時における、安全な行動に対する理解を深め、その場に応じた適切な行動を取ることができた。中学生は避難してきた人たちを受け入れる訓練が、迅速かつ適切にできた。また、本校生徒にとっては、避難活動に地域の方々と協力して他の人々への支援を行うことができた。

　また、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めながらの避難について考えることができた。

(2) 課題

　避難する際に小学生、高校生、地域の方が合流する地点での混雑やスムーズな合流ができるような指示の仕方を検討する必要がある。そして、避難場所へ避難するだけでなく、避難場所での検温などの感染症対策など新たな対策について検討をしておかなければならない。

　また、この地区に避難指示が出た時は、地域の方々の避難のみならず保護者への児童生徒引き渡しも行われるため、大変な混雑が予想される。混雑緩和のために受け入れや誘導の仕方など受け入れ体制のより綿密な整備が求められる。そして、大規模な災害が起こったとき、児童生徒を帰宅させるのか、または待機させておくのか地域の道路事情や公共交通機関等を勘案して対応を検討しておかなければならない。

別紙様式

取 組 名	高校生主催「地域で取り組む防災教室」		
特　　徴	高校生から小学生へ、演劇やクイズを取り入れた出前授業の実施 コミュニティ・スクールの仕組みを生かした校種間連携		
学 校 名	山口県立光丘高校	期日	令和3年6月7日（月曜日）

1　ねらい

地域の課題を地域で解決する。高校生が課題解決に取り組む姿を小学生に見せることで、開かれた学校づくりやキャリア教育の推進につなげることができる。

2　概要

（1）取組の流れ

・光丘高校内で「防災教室実行委員会」を発足
・光市役所防災危機管理課の職員から専門知識についての講義を受けて公演の脚本を作成
・光丘高校・光高校演劇部と実行委員が協議を行いながら演劇やクイズを作成

（2）授業の内容

・「地震」と「津波」、二つのパターンについて学習。
・公演の対象生徒は、「高学年」の５、６年生。守られるだけでなく低学年や高齢者などを守れる存在となるよう、共に助け合う、「共助」の視点をキーワードに授業を展開。

「高校生による演劇」

「頭を低くする様子」

「高校生によるクイズ」

「小学生によるお礼の言葉」

3　成果と今後の課題等

・生徒は、「他者に分かりやすく教える」という活動を通して、一つのテーマについて深く学ぼうとするようになり、地域の一員として諸課題に取り組む意識をもつことができた。
・地域と連携する中で携わる機関が増えると、調整が難しくなる。

別紙様式

取 組 名	専門家と連携した防災出前授業		
特　　徴	東京海上日動火災保険株式会社との連携		
学 校 名	阿武町立福賀小学校	期日	令和3年9月1日（水曜日）

1　ねらい

専門家を招いた防災授業を行うことを通して、水害・土砂災害についての知識を深め、災害時にどのような行動をとるべきかを判断することができるようにする。

【本校の重点取組事項関連】

2　概要

（1）水害・土砂災害が起こる仕組み

シミュレーション動画を使った説明を受けることで、大雨が降ってから水害や土砂災害が起こるまでの様子を知ることができた。

（2）水害や土砂災害から身を守るための方法

本校校区のハザードマップの見方や、避難情報にあるレベルについての説明を受けることで、自分の住んでいる地域に潜む危険について知ることができた。

（3）避難場所での過ごし方

避難場所で過ごさなければならないことを想定し、まず、自分にできることを思い浮かべながらワークシートに書き込んだ。その後、異学年のグループでの話合いを仕組むことで、それぞれの考えを出し合いながら、自分の役割についての考えを深めることができた。

話合いの様子

3　成果と今後の課題等

実際に起きた被災についての知見をもっている保険会社の方を招いたことで、子ども達だけでなく、教職員も視野を広げることができた。また、シミュレーション動画やワークシート等の活用により、1年生も活動に参加できるよう工夫された内容だった。

今後は、今回学んだことを生かした避難訓練を実施する予定である。災害の状況や、家族・近隣住民の対応を把握したうえで、『自分に何ができるか』を考え、実行に移せる子どもの育成をめざしていきたい。

取　組　名	地震・津波対応避難訓練　児童引き渡し訓練		
特　　徴	地震･津波による二次避難場所への避難 感染症予防に対応したドライブスルー方式の引き渡し訓練		
学　校　名	柳井市立柳井南小学校	期日	令和3年11月15日（月曜日）

1　ねらい

授業中に地震が発生した場合に、自分の身を守るための基本的な行動ができるかどうか、また、避難経路の安全を確認しながら、避難場所（一次避難→二次避難）まで整然と避難させることができるかどうかを検証する。さらに、引き渡しマニュアルに従って、保護者への引き渡しがスムースにできるかどうかの検証も行う。

2　概　要

(1) 想定　※山口県地震被害想定調査報告書等を参考

・「南海トラフ地震（マグニチュード8.5）」が発生し、柳井市では震度５強の揺れを観測。柳井には、満潮と重なった場合２～３ｍの津波が地震発生後約９０分で到達。

・午後授業中、強い揺れ１分、物品の転倒・落下あり。避難経路の安全確認を要す。火災発生なし。避難時所在不明児童なし。教職員全員在校。余震を避け、屋外へ一次避難の後、津波に備えて高台に二次避難。

二次避難完了

(2) 当日の流れ

①地震の発生の校内放送
②地震発生時の行動（シェイクアウト訓練）
③地震一端終息の知らせ（放送機器使用不可設定）
④運動場へ一次避難開始
⑤一次避難完了　津波発生の情報
⑥二次避難勧告
⑦八幡公園へ二次避難開始
⑧二次避難完了
⑨児童引き渡し開始（14：50～15：20）
※今回は訓練参加可能な保護者を事前に把握した上で、実施。

ドライブスルー方式児童引き渡し

3　成果と今後の課題等

本年度は、児童の避難訓練であると同時に、教職員の適切な指示訓練及び誘導訓練であるという意識をもち、地震津波対応避難訓練を行った。事前に、学級活動等で、防災教育テキストや指導用ＤＶＤ［津波から逃げる］等を活用して、地震発生時の基本的な対応について学習していたため、地震や津波の恐ろしさや、基本的な身の守り方や、避難の仕方などを理解した上で実施することができた。また、児童引き渡しでは、コロナ禍を意識し、一方通行のドライブスルー方式での引き渡しを行った。ボランティアの方にも交通整理を依頼することで、スムースな引き渡しとなった。また、子どもたちは地域の中で守られていることを実感することができた。

本年度は保育所と合同で児童と兄弟関係のある園児も引き渡しを行った。南海トラフ地震の発生率も高いことから、今後は自治会等、地域を巻き込んだ実施へとつなげていきたい。

別紙様式

取 組 名	地域参加地震津波避難訓練		
特　　徴	児童参加型学校運営協議会での防災についての話し合いの成果を活かした地域参加型避難訓練の実施		
学 校 名	周防大島町立島中小学校	期日	令和3年11月1日（月曜日）

1　ねらい

○　学校を核とした地域づくりの一環として地域課題の一つである防災をテーマに設定し、地域住民との熟議を通して防災についての考えを深めさせる。

○　児童参加型学校運営協議会での話し合いの成果を生かした、地震津波避難訓練を行うことによって地域の防災意識をより高めるとともに実践的な訓練を行う。

2　概要

(1) 児童参加型学校運営協議会「テーマ防災」７月２１日実施

・各学年の発表

低学年　自分たちが避難するときに必要なものを話し合い、それらをまとめたものを「島中避難袋」として発表した。

中学年　地震の仕組みについて調べたことをもとに、どこに逃げるのが良いかという自分たちの具体的な行動について考えを深めた。まとめたことを分かりやすく伝えるためにクイズ形式で発表した。

高学年　南海トラフ地震の発生メカニズムについて調べ、特に津波発生について具体的な例を図で示しながら解説を行い、安全に避難するために行う行動について発表した。

・学年と地域住民との協議

学年ごとの班に地域住民や保護者も加わり熟議を行った。児童の調べたことに、大人が意見を付け加えたり、地域の実情に合わせて一緒に考えたりすることで、それぞれのテーマをより深めることができた。

・縦割り班と地域住民との協議

班を組み替え、縦割り班で各学年のテーマについて話し合った。前述の学年ごとの話し合いでさらに深まった内容を他学年の児童と共有することができた。さらに、地域住民の経験を聞くことにより、地域で災害が起こった際のイメージがより具体的になり、実際の避難行動につながる内容となった。

・グループごとの話し合い成果発表

最後に各グループの発表により、各学年の発表につながりができ、話し合いの成果を参加者全員で共有することができた。

「各学年の発表」

「グループごとの熟議」

「班別発表」

(2) 地域参加地震津波避難訓練

・事前指導　災害安全ＫＹＴ資料の活用
　　児童参加型学校運営協議会の成果を踏まえて、避難袋携行計画、避難方法・避難場所の確認
・緊急地震速報　安全確保
・避難放送「津波警報発令」避難開始
・一次避難　児童玄関前集合　点呼　地域参加者集合
・二次避難　二次避難場所への移動　近隣保育園経由組・垂直避難組に分かれ避難
　　高学年児童は保育園児と一緒に避難
・児童発表　児童参加型学校運営協議会の成果を活かした取組、実際に避難をしての感想
・保育園長　校長講評

※近隣保育園と連携を取り、合同の避難訓練とした。
※地域住民の参加を募るために、自治会長と連絡を取り地域放送のお願いをした。児童が地域に呼びかける形でのチラシの回覧、公民館等でポスター掲示など広報活動を行った。

「一時避難点呼」

「地域の方・保育園児との避難」

「避難を終えての感想発表」

3　成果と課題等

○　児童が自分たちの発表をもとに大人と話し合うことで、地域の防災についてより自分事として捉えることができた。また、児童参加型学校運営協議会の成果を踏まえた避難訓練の実施によって、児童一人一人が避難行動の意味を体験的に捉えることができた。

○　地域や近隣の保育園児との避難訓練を実施することにより、自助・共助・公助の大切さを学ぶことができた。

○　今回は、児童の声を地域に届ける形で地域の参加を呼びかけ、例年より多くの地域の参加が得られたが、高齢者が多い地域ということもあって防災についての意識はまだ十分とは言えない。今後は、さらに自治会やシニアクラブとの綿密な連携や協力を積み重ね、地域の子どもを災害から守るためにも、学校を核にした取組を積極的に広げることが重要である。

別紙様式

取組名	防災体験学習講座		
特　徴	県防災危機管理課出前講座　ＡＲ機器を用いた浸水災害体験		
学校名	周防大島町立城山小学校	期日	令和３年11月16日(火曜日)

1　ねらい

○　大雨や津波による浸水時の危険性や避難の仕方を、具体的にＡＲ（Augmented Reality:拡張現実）体験することで、災害時の危機意識を高める。

○　学校や住んでいる地域のハザードマップを確認し、災害に対する各家庭での危機対応について考えさせる。

2　概要

(1) ＡＲ体験

・膝辺りまで浸水している状態をＡＲ機器で映し出し、地面の障害物を確認しながら目的地まで安全にたどり着く体験

（本人には、膝丈までの泥水が見えていて、地面の障害物は見えていない。）

「ＡＲ体験の様子①」

「ＡＲ体験の様子②」

「ＡＲ体験の様子③」

(2) 災害についての講義

・過去の県内で起こった豪雨災害や浸水災害を映像で紹介するとともに、校区内のハザードマップを基に危険箇所や避難場所を説明

「災害についての講義の様子」

3　成果と今後について

成果として、普段体験することのない浸水状態の中で、傘を杖代わりに障害物を探りながら目的地にむけて歩く難しさを体験することで、災害時の危機意識をもつことができた。

また、自分の家周辺の土砂災害や高潮・洪水ハザードマップを確認し、住んでいる場所の危険性について家族で話す機会をつくることができた。

周囲を海に囲まれた校区で、校舎も港に近く災害の規模によっては大きな被害を受けることが考えられる。そのため、今回の体験は貴重なものではあったが、ＡＲ体験をゲーム感覚で、緊張感なく楽しんでいた児童も見られた。

今後、具体的な災害時の避難訓練や危機対応について、児童だけでなく保護者や地域の方にも参加・受講してもらい、地域ぐるみで危機管理意識を高めることが必要と考える。

別紙様式

取 組 名	不審者対応避難訓練と連動した、外部講師による安全指導		
特　　徴	綜合警備保障株式会社（ALSOK）による安全指導		
学 校 名	上関町立上関小学校	期日	令和3年5月21日(金曜日)

1　ねらい

○　不審者の侵入時に、放送や教師の指示に従い、速やかに安全な場所へ避難することができるようにする。

○　本校の警備をお願いしている警備会社の方から安全について様々なことを学ぶことにより、より幅広い視点から自分の身の安全の守り方について考え、行動することができるようにする。

2　概要

（1）不審者対応避難訓練

・不審者発見　……　不審者対応に必要な行動と役割の確認、実践
・職員室へ不審者情報提供　……　職員室で必要な行動と役割の確認、実践
・不審者対応　……　対応と児童への避難指示の役割確認、実践
・避難開始　……　「お、は、し、も」の徹底
・避難完了

体育館への避難

校長先生のお話

（2）綜合警備保障株式会社講師による安全指導

本校の校舎の警備は、日頃、綜合警備保障株式会社にお願いしている。日頃から学校の安全を外部から見守っていただいている会社の方から安全指導を行っていただくことで、自分の身の安全の守り方をより身近に考えることができるようになることをねらって、綜合警備保障株式会社の方々を講師として安全指導を行っていただいた。

児童の発達の段階によって判断力や取るべき行動も異なってくるため、3校時に1・2・3年生対象の授業、4校時に4・5・6年生対象の授業と分けて行った。低学年では主に安全な避難の仕方や不審者に対する心構えを、高学年では主に安全に留守番をするためにはどうしたらいいかについて学習した。警備を専門にしている方々の幅広く、具体的なエピソードは子どもたちの関心を引きつけていた。

1・2・3年授業

不審者についての心構え

電話対応の指導

安全についての話し合い

3　成果と今後の課題等

教職員からは、「テンポよく授業が進み、大切なことを教えていただいたのでよかった」「よく準備されていて面白く、参考になりました」といった感想が寄せられた。外部の講師による話ということで、幅広い知見や経験から思いもよらない内容が聞けること、実際の事例に基づくリアリティのある話が聞けることなど、子どもたちの意欲を喚起する条件を多く含んでいた取組だったと言える。また、不審者対応の避難訓練とセットで行うことにより、より子どもたちに自分自身の身の安全を考えさせることができたと思われる。

一方で、子どもたちからお礼の言葉を言わせようと思っていたが、その機会を作れなかったことを残念に思うという意見もあった。指導内容や当日の流れについて、事前に十分な打ち合わせを行うことで、より効果的な安全指導に改善していく必要がある。

別紙様式

取 組 名	通学路危険個所合同点検		
特　　徴	行政・警察・保護者・地域との連携		
学 校 名	平生町立平生小学校	期日	令和3年8月24日（火曜日）

1　ねらい

○　保護者アンケート（通学路の危険個所）をもとに、学校や保護者、地域、関係機関が連携して通学路の危険個所を確認し、通学路の交通安全等に対する意識を向上する。

○　確認された点検個所をもとに児童作成予定のKYT資料の参考資料及び、安全マップ作成資料を作成する。

2　概要

（1）平生小学校区の危険個所の把握

○　保護者アンケートによる結果をプレゼンテーションで説明

○　各グループで危険個所の確認と点検の順番を協議

「学校運営協議会の様子①」

「学校運営協議会の様子②」

（2）通学路危険個所点検

○　グループ別に校区全体を点検

・学校、保護者、地域、行政・警察の参加者２４名を均等にグループに入るようにする。

・アンケート内容を確認するが、児童の視点で点検することに重きをおく。

「合同点検の様子①」

「合同点検の様子②」

「合同点検の様子③」

（3）情報交換及び受指導

○　各グループリーダーの発表

・全体で情報共有しておくべき危険個所の発表

○　平生幹部交番所長からの指導

○　県学校安全アドバイザー２名からの指導助言

「情報交換会の様子」

3　成果と今後の課題等

○　学校・保護者・地域・行政・警察が一堂に会して合同点検することで、通学路の危険個所を再確認することができた。そのことが、校区内の安全マップを作成しようという意識の向上につながったと感じた。

○　２学期には、児童がKYT資料を作成予定であるので、今後、危険個所に対する大人の視点と子どもの視点の比較検討をするよい機会となった。

○　地域の方の参加に比べて、保護者の参加が少なかった。新型コロナウイルス感染症の影響もかなりあるが、保護者も学校や関係機関等と連携・協働して子どもたちの安全を守っていくという機運を醸成していく必要がある。

別紙様式

取　組　名	感謝の会・親子下校		
特　　徴	地域の見守り隊、保護者との連携		
学　校　名	山口市立興進小学校	期日	令和3年11月26日（金曜日）

1　ねらい

○　日頃子どもたちの安心安全な生活のために見守り活動をしてくださっている見守り隊の方々とのふれあいを通して、感謝の気持ちをもつとともに、児童一人ひとりと保護者が登下校の様子をふり返り、親子で交通安全や防犯に対する意識を高める。

2　概要

（1）感謝の会

・見守り隊の方の紹介
・児童代表　お礼の言葉
・見守り隊の方からのお話
・校長先生のお話
・おわりの言葉

（2）親子下校

※感謝の会後、見守り隊の見守りの中、通学路の危険箇所や「子ども110番の家」を確認しながら、親子一斉下校を行った。

見守り隊の方の紹介

校長先生のお話

3　成果と今後の課題等

親子下校

・児童とともに保護者にも参加してもらうことで、子どもたちの安心安全な生活をおくるために見守り活動等を行っていただいている方々への感謝の意をあらわすだけでなく、地域ぐるみで子育てがなされているという安心感を保護者にも感じていただけた。多くの方に支えていただいていることをあらためて実感したことはこれからの児童・保護者の地域愛につながる、とても良い機会であった。

・嘉川地区防犯対策協議会の会長からは「報酬はみなさんのあいさつと笑顔」というお話があった。コミュニケーション能力の向上をめざし、学校が日頃から大切に指導を続けている児童のあいさつが地域の方の活力になっているということを教職員が実感でき、今後の指導の励みになった。

・今後も、地域の中で守り育てられていることを知る体験を意図的に設定することで、人とのつながりを大切に感じる心や感謝の気持ちを育てる機会としてこのような場を設定し続けていきたい。

別紙様式

取 組 名	地震・津波対応避難訓練　華浦ウォークラリー		
特　　徴	学校とPTA、見守り隊、地域の方との連携		
学 校 名	防府市立華浦小学校	期日	令和3年10月29日(金曜日)

1　ねらい

○　緊急地震速報や津波警報が発令された際に児童の安全を確保し、安全な場所に誘導・避難することができるようにする。
○　華浦地域の自然や歴史にふれながら、地域の良さを味わう。
○　縦わり班全員で助け合い、協力しながら最後まで全員でゴールしようとする。
○　地域の方に協力してもらい、児童が安全に散策できるようにする。

2　概要

（1）地震・津波対応避難訓練

・緊急地震速報を受け、身の安全の確保のために校庭に避難する。
・津波警報発令を受け、二時避難場所の桑山に避難する。

桑山までの避難の様子

桑山到着

（2）華浦ウォークラリー

・地図をもとに桑山を散策しながら、チェックポイントを探して回る。
・各チェックポイントでクイズを解いたり、遊びを楽しんだりする。

クイズをしている様子

お礼のあいさつ

3　成果と今後の課題等

○　コロナの関係で去年はできなかったが、今年は津波が来たときにどこにどのように逃げるのか実際に体験させることができてよかった。
○　たくさんの地域の方々の見守りのおかげで、大きな事故やケガなく避難訓練とウォークラリーを終えることができた。
○　今後も地域と学校の連携を大切にし、地域の方の支えがあるからできる行事があることを児童が実感できるようにする必要がある。

別紙様式

取 組 名	タブレット・防災クラブ		
特　　徴	地域住民との連携、地域における学習		
学 校 名	宇部市立東岐波小学校	期日	令和３年度（年間６回）

1　ねらい

自分たちの住む地域でどんな災害が起こる可能性があるのか、またそれに対する対策にはどのようなものがあるのかを学ぶことを通して、防災に対する意識を高めるとともに、地域防災にかかわっている地域の人たちの思いにふれ、ふるさとを愛する心を育てる。

2　概要

・校区内にある様々な防災施設等について、地域学校協働活動推進員の方をはじめとする地域住民から話を聞き、見学計画を立案する。
・今年度のクラブ活動において「タブレット・防災クラブ」を新設し、活動に関心・意欲のある児童を募集する。
・地域学校協働活動推進員や地域住民ボランティア、担当教職員の引率のもと、児童が校区内各所に設置されている防災施設（水門、防波堤）等を見学し、防災について学ぶ。
・学んだことをポスター・ＨＰ記事等にまとめ、他の児童や保護者、地域住民等に発表する。

防波堤の見学

水門の見学

水門の操作

3　成果と今後の課題等

（1）成果

・防災施設に対する児童の関心の高まりがみられた。また、地域で様々な人が地域を守るために力を尽くしているということを知る機会となった。
・教員にとっても、地域の防災の取組について一層詳しく知ることができ、学校における防災教育を充実する機会を得ることができた。
・地域住民にとっても、地域の防災施設や防災に対する思いを広く伝える機会となった。

（2）課題

・年間６回の限られたクラブ活動の時間における取組のため、天候次第で内容・成果が大きく変わってしまう可能性がある。今後は学校・地域連携カリキュラムに明確に位置付け、当該学年の子どもたち全員が学べるよう検討する必要がある。

別紙様式

取　組　名	本山地区防災訓練		
特　　徴	学校・家庭・地域が一堂に会した地区防災訓練を実施する。		
学　校　名	山陽小野田市立本山小学校	期日	令和3年11月28日（日曜日）

1　ねらい

学校・家庭・地域が一堂に会した地区防災訓練を実施することにより、災害時の対応や命の大切さを認識した共助による活動が活発化し、良好な地域コミュニティの関係を構築する機会とする。

2　概要

(1) 想定

令和３年１１月２８日（日）７時２０分、周防灘を震源とするマグニチュード７．３の地震が発生し、市内全域で震度６強相当の揺れを観測する。この地震により、市内各所で家屋の倒壊が発生し被災者も多数見込まれる。道路の損壊等をはじめ、交通機関や電気・ガス・水道・電話等のライフラインも停止する。同日７時４５分山陽小野田市長より「避難指示」発令。

(2) 緊急メール発信

「避難指示」の発令を受け、児童・保護者が各地区の児童登校班の集合場所に集まり、避難所となっている本山小学校へ避難する旨の緊急メールを発信した。地域住民については、セーフティネットワークの代表者から各自治会への連絡に従って学校へ集合いただいた。

(3) 当日

①参加者　本山地区住民約７０名（コロナ禍により来校者数の制限）
保護者９５名　本山小学校全校児童　竜王中学校ボランティア生徒９名　防災士９名　本山地区消防団１４名
市危機管理室３名

②訓練

７：５０　緊急メール
～８：１５　各登校班の集合場所へ集合　⇒　学校へ避難
～８：５０　避難完了（運動場）　※中学生ボランティアによる受付業務・地域の方のお世話　⇒　開会行事
９：０５　低・中・高学年に分かれ、防災士による授業及び起震車体験（全校児童・保護者・地域）を実施した。
○ＤＶＤ視聴等による防災学習
○牛乳パックを使ったトレー・スプーン・ホイッスル作り⇒実際の食事体験
○震度７の起震体験
地域住民は、ＤＶＤを活用した防災学習・体育館で段ボールによる居住空間作りとベッド作り・避難時における立入禁止教室の確認を行った。
１１：００　消防団による放水訓練　⇒　閉会行事
１１：２０　解散

避難完了

段ボールで

牛乳パックで

3　成果と今後の課題等

(1) 成果

緊急メールの発信を受けて、児童と保護者が各登校班の集合場所から、避難場所である小学校に避難したり、児童と保護者が一緒に防災学習を行ったりすることで、危機意識の高揚が図られ、緊急時の心構えや行動の仕方等をより確かなものにすることができた。

地域住民・保護者と合同で訓練を実施したことにより、地域住民・保護者の防災意識の高揚が図られるとともに、少しではあるが児童の地域住民としての自覚を促すことができた。

(2) 課題

防災訓練の実施状況について様々な視点から分析し、児童の防災意識をさらに高める活動を工夫するとともに、改善策を地域住民・保護者と共有する手立てを講じてしていく必要がある。

避難所開設マニュアルを作成し、地域・保護者・学校が共通理解しておく。

取 組 名	学校運営協議会による校地内点検・児童の校内安全マップづくり		
特　　徴	○　教職員、地域、保護者が連携し、より広い視野で校地内の安全を強化する。 ○　児童が校地内の安全マップをつくる活動を通して、児童の危険予知能力の向上を図る。 ○　児童が学習発表会で全校児童や保護者に発表することで、全校児童の安全に対する意識の向上を図る。		
学 校 名	萩市立白水小学校	期日	令和3年 7月30日（金曜日）～ 令和3年10月23日（土曜日）

1　ねらい

○　学校運営協議会の仕組みを生かし、家庭・地域・関係機関等と学校が連携して、校地内点検を行うことで、より広い視点で、学校内にある危険箇所を抽出し、改善する。

○　児童が、校地内の危険箇所を見つけるための視点について話し合ったり、見つけたことを全校に発信したりすることで、危険予知能力の向上と全校児童の安全に対する意識の向上を図る。

2　概要

(1) 第２回学校運営協議会による校地内点検

・３部会に分かれて校内を巡り、危険箇所をチェックする。

・点検の視点　①　設備・施設の破損、または、破損はないが構造上危険な箇所
②　児童の行動の特性上、配慮の必要な箇所
③　防犯上危険な箇所（見えにくい、進入しやすい）

・点検内容　①　不具合場所、施設設備等
②　不具合内容
③（可能なら）改善方法・対応策

(2) ４年生「校内安全マップづくり」

・校内で安全に過ごすためにどんなことに気を付ければよいか、気を付けるべき場所はどこか、危険な場所はないか、について考える。

・話し合った視点をもとに、校地内をまわり、危険箇所についての情報を集める。

・校地の地図に危険箇所の情報をまとめる。

(3) 学習発表会での全校児童、保護者への発信　安全マップの校内掲示

3　成果と今後の課題等

学校運営協議会による校地内点検では、教職員が安全点検で気付けなかった多くの場所が指摘された。また、10年ほど前の児童のけがなど、把握していなかった情報も知ることができ、改善への動きにつなげることができた。また、児童の安全マップづくりでは、話し合ったり考えたりする活動が、児童の危険予知能力を向上させることを実感した。今後、高学年には通学路マップ、低学年には自転車の乗り方、交通ルールや遊び場でのマナーについて学ぶ機会を設定し、意識を高めていくとともに、コロナ禍で難しかった地域との絆を深め、地域全体の安全・安心につなげていきたい。

校地内点検

４年「校内安全マップづくり」

別紙様式

取 組 名	防災学習・三隅合同避難訓練		
特　　徴	授業(5.6年合同学習)と地域の合同避難訓練との連携		
学 校 名	長門市立浅田小学校	期日	令和3年10月19日(火曜日)

1　ねらい

○　子どもたちが、台風や地震、火山の噴火による災害やその備えについて調べる活動に取り組み、互いに考えを伝え合ったりしながら、災害に備えることの重要性を考えることができる。

○　水害発生を想定した避難を通して、水害の怖さを知り、安全で適切な対応の仕方を身に付けることができるようにする。

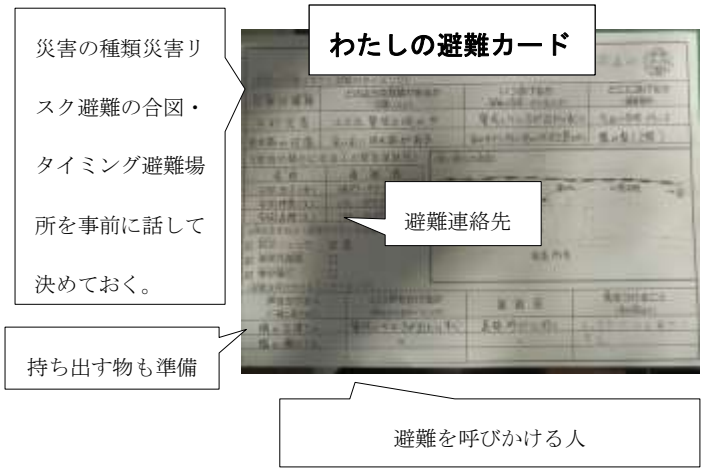
2　概要

(1) 授業の中で防災について学ぶ。

・5年理科「流れる水のはたらき―わたしたちのくらしと災害―」6年理科「変わり続ける大地―私たちのくらしと災害―」の授業の中で、災害(台風や地震、火山の噴火)時における避難方法や備えについて各自で調べ、まとめる。

・家族と相談しながら「わたしの避難カード」の作成に取り組む。

・5・6年合同発表会では、グループに分かれ、調べたことを発表し合う。



〈班に分かれて発表会〉

【学習後の振り返りカードより】

・　友達の発表を聞いて、いつにげるか、どこににげたらいいのかなどが分かりました。きん急連絡先や持ち出すものとかをお母さんやお父さんと一しょに話し合いたいと思いました。家の周りで危険な場所があるか調べてみたいと思いました。

・　この学習で、災害がすごくこわいことを改めて思いました。地震によって、地割れが起きたり、火山の噴火によって、多くの噴火物が出てきたりして危険だなと感じました。そして、災害に備えて、家族で相談しようと思いました。

・　5年生の発表をし合って、よくニュースを見ようと思いました。地震や火山の噴火は、いろいろな災害が起きるのでとてもこわいです。だから、それに備えて家具を固定したり、食料・飲料などのひ難準備をしたりしておこうと思います。

・　5年生で話を聞いて、ニュースを見てすぐにひなん場所に行くことが分かった。友達の話を聞いて食べ物や水が大事なこと、また、前より災害や地震のことがよく分かった。

・　自分の知らない災害などがあった。突然地震や津波などがあるとこわい。いざというときに、ひ難するための準備ができていないから、準備するようにしたい。

・　みんなの意見を聞いて、改めて、災害はいつ起こるか分からないからこわいなと思いました。5年生の話を聞いて、もし起きそうなときは、すぐにお父さんやお母さんに知らせようと思いました。これからも、今日聞いたことを生活に生かしていきたいと思います。

(2) 三隅合同避難訓練

年に１回三隅の３つの地区合同(三隅上地区・・・宗頭幼稚園、三隅中地区・・・明倫小学校・三隅中学校・三隅保育園、三隅下地区・・・浅田小学校)の防災避難訓練を行っている。例年ならば、保護者や地域の方にも参加していただくが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校内で児童と教員のみで実施した。

本校では、第一次避難として体育館(２階)へ避難、その後第２次避難としてギャラリーへ避難した。

最後に、防災危機管理課の職員の方から避難訓練を見ての気付きや浅田地区が大雨になった場合の被害状況、また、ハザードマップについても説明していただいた。

その後、各教室で避難訓練の振り返り、また、どの児童も「わたしの避難カード」を家庭へ持ち帰った。コロナ感染防止のため、保護者や地域の方との合同避難訓練は実施できなかったので、参観日に併せて、事前に５年生が作成した避難カードを掲示していたり、学級通信等で避難訓練の様子を家庭にも知らせたりした。

【第２次避難】

【防災危機管理課の職員の方のお話】

3 成果と今後の課題等

○　理科の授業で「わたしたちのくらしと災害」５年生(台風) ６年生(地震や火山)　について、それぞれの学年で学習し、児童自身が防災について考えた。５年生には、「わたしの避難カード」を持ち帰らせ、家族と一緒に避難カードを作成した。その後、発表会を設け、５年生は、「わたしの避難カード」について６年生に説明し、６年生は、地震や火山について調べたことを伝えた。子供たちの振り返りカードには、「いつにげるか、どこににげたらいいのか、食べ物や水が大事なこと、また、前より災害や地震のことがよく分かった。」という内容のものが多く見られた。また、伝え合うことで、より災害の怖さや事前に準備することの大切さも感じられたように思う。更には、「きん急連絡先や持ち出すものとかをお母さんやお父さんと一しょに話し合いたいと思いました。」と書くなど、授業や、家族で避難カード作りに取り組むことで、家族で防災について考える機会にもなったようである。

○　三隅合同避難訓練では、事前に防災危機管理課の方に児童の学習の様子をお話し、訓練後の講評でハザードマップ等についてもお話していただいた。また、大雨が降った場合、浅田地区ではどんな災害が起きることが予想されるか具体的にお話していただき、児童一人ひとりが真剣に聞く様子が見られた。また、三隅合同避難訓練に合わせて1～4年生にも避難カードを配布したところ、自主的に取り組んだ家庭もあった。

○　今年度は、コロナ禍ということもあり三隅合同避難訓練には児童のみの参加になった。来年度は、ぜひ保護者、地域の方にも参加していただき、一緒に防災について考える機会になればと思う。

別紙様式

取 組 名	地震避難訓練		
特　　徴	事前にKYT学習をした上での日時を告げない避難訓練の実施		
学 校 名	長門市立油谷小学校	期日	令和3年10月28日(木曜日)

1　ねらい

○　地震発生時の安全で適切な自己防衛の仕方を身に付けさせるとともに、緊急時の集団行動の大切さを理解できるようにする。

○　児童を安全に避難させることができるようにする。

2　概要

今回は事前にKYT（危険予測トレーニング）学習を取り入れ、地震発生時における自己防衛の仕方を避難訓練で生かせるようにし、本番では日時を告げずに実施した。

(1) 事前指導（学活１時間　災害安全 KYT 学習）

・KYT 学習をする。（家庭での地震発生）　※ワークシート活用

→地震発生時の身の守り方、安全な避難の仕方等

・避難訓練についての指導（授業時での地震発生）

→25 日～29 日の期間に実施することを告げる。（日にち、時間帯は知らせない。）

→地震が起こった時の避難の留意点

(2) 当日の流れ

10:00　地震発生(緊急地震速報・地震音)　被害状況の確認
10:02　避難指示
10:07　避難完了（運動場集合：人員確認　負傷者救護）
10:10　講話　　（少年安全サポーター・校長）
10:25　終了　校舎に入る
10:35　事後指導（振り返り）

KYT 学習後の掲示

避難訓練中

少年安全サポーターの話

3　成果と今後の課題等

○　地震が起こった場合の身の守り方や逃げ方等を事前に KYT 学習で学んでいたため、児童の避難訓練への意識や動き方により積極性が出ていた。事前の KYT 学習、事後の振り返りは児童、教職員にとって効果的であった。

○　事前に日時を知らせないことや避難の手順等の理解について、学年によって若干のずれがあった。命を守る訓練のため、教職員が確実に共通理解して取り組むことが大切だと感じた。

○　地震はいつ起こるか分からないため、授業中だけでなく休み時間等に起こった場合の児童や教職員の動き方を訓練することも必要である。

別紙様式

取 組 名	緊急時引き渡し訓練		
特　　徴	ＩＣＴを活用した引き渡しシステムづくり		
学 校 名	柳井市立柳井中学校	期日	令和3年6月26日（土曜日）

1　ねらい

学校の教育活動中に災害等が発生した際に、生徒の保護者への引き渡しがスムーズに行われるように、引き渡しシステムについて確認する。

2　概要

（1）対象者

・本年度１年生及びその保護者

・毎年１年生を対象に実施することで、保護者への「引き渡しシステム」の周知を図る。

（2）設定

・体育館やグラウンド等、全員が一斉に集合する場所が使えない状況設定とする。

・生徒は、所属する教室で担任の監督の下、引き取り者が来校するまで待機する。

・学年主任、副担任が中心となり受付デスクを設置し、受付を担当する。

（3）実施の流れ

引き渡しの様子

①　引き取り者となる保護者は、受付デスクで「緊急時引き渡しカード【携帯用】」を提示し、「〇〇の（保護者）です」と伝える。

②　受付担当教員は「緊急時引き渡しカード【学校保管用】」と照合し、確認が取れ次第「引き渡し名簿」に必要事項を記入する。

※　ここで「緊急時引き渡しカード【携帯用】」を忘れた場合は、運転免許証等で本人確認を行い、そのことを「引き渡し名簿」に記入する。

※　自宅以外の場所に引き取る場合は連絡先を聞き記録する。

③　生徒本人の確認のため、受付から教室にいる担任へ連絡する。

④　受付からの連絡があり次第、担任は生徒本人に引き受け者の確認をする。

（4）実施上の工夫点

受付のタブレット端末

〇　受付の教員と教室にいる担任との連絡の際に、タブレット端末のビデオ会議アプリを活用する。

〇　ビデオ会議アプリを活用するメリット

・１階の受付と３階の教室のように離れた場所でも、速やかな連絡を取ることが可能となる。

・「緊急時引き渡しカード」や運転免許証等で、引き取り者の確認が取れない時、タブレット端末上で、生徒に引き取り者の「顔」を確認させることができる。

3　成果と今後の課題等

〇　生徒、保護者はもちろんのこと、教員が「引き渡しシステム」を確認する良い機会となった。実際に、「引き渡し」を実施する事態が発生した場合、「引き取り」に来る保護者以上に、「引き渡す」教員の方に、冷静かつ迅速な対応が求められるだけに、今後も継続して訓練を行っていきたい。

〇　発生した事態によっては、全員を一堂に集めることが困難となるケースも想定される。また、現在のコロナ禍においては、密を避ける方策を検討する必要もある。その点で、生徒の待機場所を教室にして、受付と教室の連絡をタブレット端末で行うシステムは、新たな可能性を感じるものであり、今後さらに検討を重ねたいと思う。

〇　全校生徒が５５０名を超える本校においては、実施時の交通渋滞等を考えると、全学年一斉の訓練実施が困難である。ただし、いつ、どのような形で発生するか分からない事態に備え、全学年一斉の訓練の実施も不可欠である。地元の警察署と連携して、交通整理を行うなど、対応策を考え、よりよい訓練の在り方を模索する必要がある。

別紙様式

取　組　名	不審者対応避難訓練		
特　　徴	バリケード作成による不審者侵入の阻止		
学　校　名	平生町立平生中学校	期日	令和3年6月28日（月曜日）

1　ねらい

不審者侵入などの緊急時における生徒の安全を確保するための訓練を実施し、組織体制を確認するとともに、侵入者への対応の方法や牽制体制の習得及び教職員や生徒の安全管理の意識の啓発を図る。

2　概要

（1）不審者対応避難訓練

（不審者対応避難訓練は、生徒を一か所に集めて避難するパターンとバリケードを作って立てこもるパターンの２つがあると考えられる。今回は、犯人が動き回り、一か所に集まることが危険なため、通報して警察が来るまでの時間をしのぐことに重点をおき、バリケードを作成するパターンでの訓練を設定した。）

・体育館で、命を守るために冷静に行動すること、校内で不審者に遭遇した場合の行動の仕方、身の守り方についてスライド等を使用し教頭から指導

→柳井警察署生活安全課に、身の守り方・バリケード作成の有効性について確認

教頭による指導

机やいすを使った防御方法

机やいすを使った防御方法

・本日の避難訓練の想定事項について確認

「教室で授業中に、生徒玄関から不審者が侵入してきたという放送が入った。不審者は現在どこに潜み、どのような行動をとるか予測できない状況である。どう行動すればよいか。」

・緊急放送の暗号について解説

・バリケード作成のポイントを説明

短時間で行うためにどう行動すべきか

安全に築くためには、何に注意すべきか

・教室に戻り、各クラスでバリケード作成

・クラスで振り返り

クラスでの振り返り

生徒によるバリケード作成

完成したバリケード

3　成果と今後の課題等

○　どのようにバリケードを作るか生徒自身に考えさせることで、自分の命を守る行動やその方法についての意識を高めることができた。

○　今回は、警察が到着するまでの数分間、不審者を侵入させないという目的で訓練を行った。初めての取組だったので、時間をかけてバリケードを作成したが、実際はいかに短時間で安全に作成するかが大切になるため、継続した訓練が必要である。

別紙様式

取 組 名	交通移動教室		
特　　徴	中学生だけでなく、入学予定児童と共に実施する交通安全教室		
学 校 名	周南市立桜田中学校	期日	令和3年3月23日（火曜日）

1　ねらい

中学校仮入学の日に合わせ、山口県警察による交通移動教室を受講することで、桜田中学校区に通う児童生徒一人ひとりの交通安全意識の普及・高揚を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣づけ、交通事故を抑止する。

2　概要

（1）講話

・山口県内の交通事故発生状況
・交通事故原因と自転車事故事例
・自転車の通行区分
・自転車に関する交通法規と遵守事項
・交通事故発生時の措置、損害賠償等
・標識に関する知識
・ビデオ視聴（交通事故の悲惨さについて）

山口県警察による講話

（2）実技指導（自動車を使用した実験）

・自動車の内輪差・死角に関する実験・危険予測実験
・ダミー人形の衝突実験

自動車を使用した実技指導①

自動車を使用した実技指導②

自動車を使用した実技指導③

3　成果と今後の課題等

○　ダミー人形の衝突実験では、事前に児童・生徒へのアンケートをとり、激しい衝突に恐怖を感じる児童・生徒への配慮のため別室でビデオ学習などの対応をした。

○　ダミー人形の衝突実験では、自動車のスピードが出ていないにも関わらず、大きな衝撃音があり、児童・生徒は、本当に危険だということを理解できたようであった。

○　本校は校区が広く自転車通学生が多い。そのため、入学予定児童と合同で交通移動教室を受講することにより、中学生や新たに自転車通学をはじめる児童への注意喚起ができた。

○　国道や高速道路が近くに通っており、大型車なども多い。また、朝の通学時間帯は駅に向かう高校生や大人がおり、自転車同士の接触事故の危険性がある。小学生の登校時間とも重なるため細い路地などを通行するときにも細心の注意が必要であり、並進をしないことや一時停止などをきちんと守ることが必要である。一人ひとりが正しい交通マナーを意識することが大切である。

別紙様式

取 組 名	生徒が主体的に参画することをめざした避難訓練の実践		
特　　徴	生徒の視点から避難訓練を捉え直すことで、防災意識を高める		
学 校 名	宇部市立上宇部中学校	期日	令和3年 5月25日（火曜日） 令和3年10月19日（火曜日）

1　ねらい

○　避難訓練の事前準備や当日の運営、事後指導の一部を生徒会執行部や保健体育委員会の生徒とともに行う手だてを仕組み、生徒主体の避難訓練にすることで、生徒の防災意識を高める。

2　概要

（1）１学期避難訓練（地震対応）５月

・避難訓練の様子を生徒がタブレットで撮影し、その動画を用いてふり返りを行った。準備から実施までの流れを以下に示す。

ア　事前打ち合わせ（生徒会執行部と担当教員、教頭）

担当教室やフロア、タブレットによる撮影場面と視点、担当生徒によるふり返りの視点や流れ等を細かく打ち合わせした。

イ　避難訓練当日

１～３年までの各教室を担当する生徒が、地震発生時に机の下にもぐって頭を隠す場面や、避難開始からグラウンドに集合するまで場面を撮影、観察する。その後、各学年別に担当生徒が司会進行役で、撮影動画を見せながら、生徒の言葉による避難訓練のふり返りを行った。

ウ　事後反省会（生徒会執行部と担当教員、教頭）

エ　学校運営協議会での実施報告（生徒会執行部による）

生徒による訓練の振り返りの様子

（2）２学期避難訓練（地震→火災対応）１０月

・火災対応のための事前打ち合わせ（消防署職員、地域見守り隊（消防団））に保健体育委員も参加し、避難訓練における指導ポイントや指導効果を高めるための手だてについて協議を行った。以下にその意図と流れを示す。

ア　事前打ち合わせ

避難訓練を行う際に綿密な実施計画や打ち合わせ、たくさんの方の協力があって実施されていることを生徒に肌で感じさせる。

生徒が普段感じている素朴な疑問や避難訓練時の課題等を防災のプロの方に聞いていただき課題解決のためのアドバイスをもらった。そしてその熱意を学校全体に広げるための具体的なアドバイスや手だてについても協議を行った。

イ　避難訓練までの事前、事後指導

保健体育委員会が１０月を防災意識向上月間と定め、避難訓練実施日までに防災意識を高めるための取組を企画した。内容は、各学年の保健体育委員が防災に関するミニクイズを作成し、帰りの会で実施した。これは、避難訓練実施後も継続して行った。

3　成果と今後の課題等

○　避難訓練をより自分のこととして捉えるための手だてとして、生徒会執行部の生徒による避難訓練のふり返りを企画した。生徒会執行部の避難訓練に対する意識向上はもちろんのこと、生徒目線で、生徒の言葉による訓練のふり返りは、これまで学校から機会を与えられるだけの避難訓練よりも身近に感じるものになったのではないかと感じた。今後の課題としては、生徒会執行部以外の生徒による取組を通して、さらに防災意識の向上を学校全体に浸透させることであると感じた。また、避難訓練が実施当日だけのものになっていることも課題の一つとして捉えた。

○　１学期の課題（生徒会執行部以外の生徒による取組と長期的な防災意識向上の取組）を踏まえ、２学期の避難訓練は、①保健体育委員会の生徒を中心にした企画、②防災意識向上月間の中の一つとしての避難訓練実施という２点の改善案で臨んだ。避難訓練が一時的な行事でなく、保健体育委員会の防災クイズ等で得た防災知識の先にあるものであり、それを得た知識を実際に実践する場であるとの意識がもてるものとなった。今回のような機会を継続していき、生徒が主体的に参加することを通して、防災意識向上を図っていきたい。

事前打ち合わせの様子

別紙様式

取 組 名	令和３年度交通移動教室と自転車安全点検		
特　　徴	山口県交通安全学習館と連携した活動と総務委員会（専門委員会）を主体とした活動の連動		
学 校 名	下関市立豊洋中学校	期日	令和3年4月15日（木曜日）

1　ねらい

交通安全に関して、特に自転車での走行について、自分や相手を大切にして安全に通行するための知識と意識を高める。

○　本校の自転車利用者の現状

本校は、下関市旧郡部の田園地域に位置する学校であり、これまで深刻な交通事故は発生していない。全校生徒１１９名のうち自転車通学生５１名と約半数の生徒が自転車通学をしており、普段自転車を利用している生徒も多い。そのような中で、校区内の国道や県道等は道幅が狭い道路が多いこと、また、本校は生徒指導上の問題は少ない学校ではあるが、かつてより自転車通学生がルールが守れない地域があるなど、生徒の自転車走行時の安全意識の低さが課題であった。

2　概要

（1）交通移動教室（山口県交通安全学習館と連携した活動）

① 講話（室内　約３０分）

ア　山口県内の交通事故発生状況について
イ　交通事故原因と自転車事故事例
ウ　自転車の交通区分
エ　自転車に関する交通法規と遵守事項
オ　交通事故発生時の措置、損害賠償について

② 実技指導（屋外　約３０分）

ア　自転車点検の方法について
イ　実技コースを走行
ウ　危険予測について

交　通　移　動　教　室

○　交通移動教室の成果

交通移動教室を通して、生徒は法規を改めて知ったり曖昧であった知識を明確に理解できたと思われる。また、自転車事故が多額の損害賠償につながり後の人生に大きな影響を及ぼすこともあり得ることを知ったことで、安全意識の高揚につながった。

後半部分の実技指導では、実技を本校の総務委員会（生徒会専門委員会の１つであり交通安全の仕事も行っている委員会）の生徒が行った。生徒は自転車点検をどのようにしたら良いのか、どのような場所に危険が潜んでいるのか理解したように思われる。

（2）自転車点検（総務委員会を主体とした活動）

交通移動教室で実技を行った総務委員会は毎月１回自転車点検を行っている。その際、整備不良またはそれに近いものがあれば、生徒指導担当教諭とともに指導を行っている。また、昨年度より自転車の施錠と鍵の管理の指導にも力を入れている。

2　成果と今後の課題等

○　今年度４月に山口県交通安全学習館による交通移動教室を実施し、前述のように自転車走行についての安全意識を高めた上で、生徒による自転車点検を行っているので全体的に生徒の自転車整備に対する意識も高まっている。

○　従来より全体的に安全意識が高まっている一方、一部生徒の中には、安全意識が低く、ヘルメットをかぶらずに運転する生徒や禁止区域での乗車など自転車通学のルールが守れない場合もあるので、継続した指導を行っていきたい。

別紙様式

取　組　名	プロから学ぶ 知っ得健康セミナー		
特　　徴	カフェテリア方式による、全校生徒・保護者参加の拡大学校保健安全委員会		
学　校　名	萩市立萩西中学校	期日	令和3年11月25日（木）

1　ねらい

○　災害を身近なこととととらえ、防災への関心を高める。

○　災害時に、自分の命を自分で守ることができる実践力を養う。

2　概要

（1）取組の流れ

カフェテリア方式の学校保健安全委員会研修会を開催し、講座の中から自分の課題解決に役立つ講座や、興味関心がある講座を選び受講する形で取り組んでいる。講座の一つとして、「防災」の講座を開設し、研修している。

平成30年度から、より親しみやすい会になるよう、名称を「プロから学ぶ 知っ得健康セミナー」として、開催している。

（2）当日の流れ

13:30　各講座に分かれる。
　　開会を校内放送で行う。

13:40　講座開始
　　講座10「防災」一人ひとりが取り組む防災

【内容】
・ハザードマップの見方
・災害対策の基本　自助、共助、公助
・災害が起きたときの行動についてグループワーク
・どの状況で避難するか、避難スイッチを決める

【講座の様子①】

【講座の様子②】

14:50　講座終了

15:00　各講座で学んだことや感想を放送により発表し、全体でシェアする。
　　教頭講評

15:30　閉会

3　成果と今後の課題等

（1）成果

自分の命を自分で守るために、どんな災害が起こるか想像し、ハザードマップで確認しどう行動をとるべきか考え、備える（準備しておく）ことが重要であると学んだ。

また、人間は逃げるという決断がなかなかできないため、どういった状況になったときに避難するか、避難スイッチを事前に決めておく必要があることを理解した。

（2）課題

この講座で得た、知識や高めた意識を避難訓練や防災訓練とつなげていく必要性を感じた。

また、学校では学期毎に避難訓練を実施しているが、家庭では何も準備をしていないという気づきがあり、生徒たちが学んだ知識を家庭に帰って家族とも共有できるようにしていきたい。

別紙様式

取 組 名	防災避難訓練・防災学習		
特　　徴	事前に日時等を知らせない訓練・一人一台タブレット端末(Chromebook)の活用		
学 校 名	長門市立仙崎中学校	期日	令和3年11月25日(木曜日)

1　ねらい

人命尊重の理念を踏まえ、緊急時に安全･迅速に避難できる行動要領を習得させるとともに、防災避難訓練と防災学習を通して防災意識の高揚を図る。

2　概要

(1) 防災避難訓練

・５校時の授業開始２分前に、突然【予告なし】地震の音【ＣＤの効果音】が聞こえる。
・地震による緊急放送が入り、頭部を中心に身を守るよう指示が入る。
・避難指示の放送中、機器故障のため放送が途絶える【放送を途切れさせる】。
・担任の指示と誘導により避難行動を開始する。
・地震による崩壊で１カ所避難通路が遮断【ロープと立て看板の設置】されているため、違う経路を通ってグラウンドへ避難する。
・全校生徒と教職員の人数確認をする。
・担当からの講評を受け、その後、教室に戻る。

地震からの安全確保

避難経路の遮断

グラウンドへ緊急避難

(2) 防災学習【一人一台タブレット端末Chromebookの活用】

・教員間のChromebook：Meet)による全教室への一斉配信(電子黒板と接続)で進行する。
・全校生徒のChromebookへ校区の写真(仙崎地区全景)を送信し、下校中での大地震を想定し「どんな状況」になり、「どんな行動」をとるべきか考える。(個人→グループ)
・理科担当教員による「地震・津波ミニ講話」を聴く。
・全校生徒各自で防災クイズ（Chromebook：Forms）に取り組み、回答し、返信によって得点と解答を知る。
・全校生徒各自で振り返り(Chromebook：Forms)を行う。

3　成果と今後の課題等

○　事前に日時等を知らせない事により、現実味があり、災害を「自分事」として捉えることができる訓練となった。
　ただし、トラウマや外傷が生じないように、配慮を要する生徒とその対応を教職員間できちんと共有しておくことが大切である。

Meetによる各教室への一斉配信

Chromebookを活用しながらグループ協議

○　放送機器故障や避難経路遮断という設定により、教職員一人一人の判断力も養われた。
○　Chromebookの活用により、全校一斉学習を各教室で実施することができた。また、画像閲覧・クイズ・振り返りを生徒が各自で行い、送信・返信によって効率よく、スピーディーに学習が展開できた。更に、生徒のクイズの得点や感想等は、Chromebookの活用で、スムーズに教職員間で共有できた。
○　今後、安全教育における、Chromebookの有効活用に更に取り組みたい。

別紙様式

取組名	地域の防災学習		
特徴	過去の災害を振り返り、地域住民と防災について学習。		
学校名	山口県立熊毛北高等学校	期日	令和３年 ６月18日（金） 令和３年12月10日（金）

１　ねらい

地域住民との防災学習を通して、生徒の自立貢献する力や新たなものを創造する力を育てる。また、近隣の小学校及び中学校と連携し学習内容を発表するなど地域と学校の連携を強化していく。

２　概　要

(1)　“ほっと三丘”コミュニティ協議会との交流①：６／１８（金）

熊毛地域の防災について、“ほっと三丘”コミュニティ協議会の方と、地域の防災についてディスカッションをして、高齢化の進んでいる地域で、これから高校生にできる防災危機管理や災害時のボランティアの在り方について議論を交わした。

“ほっと三丘”コミュニティ協議会の様子

(2) ゆうほく祭（文化祭）での中間発表

防災についての研究について、文化祭の中で中間発表をした。この発表を地域の方々にも、試聴していただき、これからの方向性などアドバイスをいただいた。

(3)　“ほっと三丘”コミュニティ協議会との交流②：１１／５（金）

さらに防災について理解を深めるために３年前の三丘地域の災害状況を理解することが必要と感じ、熊毛地域の防災マップを片手に、災害状況の説明を受け地理的な観点より三丘の災害リスクについて学んだ。そこから自分たちの生活している地域で、防災の危機管理に対する考えについて学んだ。

(4) 光市消防署職員来校：１１／２６（金）

光市消防署に勤務している地域の方をお招きして、消防士の立場での災害時の活動や防災に関する講義をしていただいた。防災の危機管理に関する歴史や知識について、また準備には何が必要なのかを深く学ぶことができた。

〝ほっと三丘〟コミュニティ協議会や光市消防署との交流・連携

(5) 光市消防署防災センター：１２／１０（金）

光市消防署からの講師の先生に紹介していただき光市防災センターでの体験学習を行った。自分たちの生活している場所も活断層が走っているということもあり阪神淡路大震災相当の地震体験では震度６などを体感した。火災を想定しての煙避難訓練のポイントを受けた。今までの講演や説明だけでなく実際に体験することで、防災学習の大切さを実感でき、発表を通して学校内だけなく地域にも発信していかなければと強く思った。

3　成果と今後の課題等

光市消防署との交流・連携

日常意識していない防災について考える良い機会になった。総合的な探究の時間での少人数の取組ではあったが、地域の方々の協力で成果は大きかった。生徒の自立貢献する力や主体性を育成し、防災についての意識が向上した。この学習成果を、１月に中学校で発表することで、地域の防災意識を高めていき、地域一丸となってのつながりを一層深めていきたい。また、高齢化の進んでいる地域での高校生としてできる災害ボランティアについても考えていきたい。

今年は、地域の防災行事の日程が学校の行事日程と合わず参加できなかったので、地域と学校の連携を深めるためにも事前の綿密な調整が必要と感じた。今後も熊毛のまちづくりに向けて、さまざまなテーマを見つけて考えさせていきたい。

別紙様式

取 組 名	「安全点検デー」の実施		
特　　徴	毎月１回、日にちを決めて、生徒と教員が校内の安全点検を実施		
学 校 名	山口県立防府高等学校	期日	令和3年11月19日(金曜日)

1　**ねらい**

毎月１回、教職員・生徒が協働した安全点検をすることで、学校安全に対する意識を高め、安心・安全な学校づくりに資する。

2　**概要**

(1) **点検日**　毎月２１日を基準に、休日、学校行事等を考慮して月ごとに定める。

(2) **点検時間**　掃除時間及び部活動時間

(3) **点検項目**　担当の掃除区域及び部室について、以下の項目について点検する。

・破損箇所や危険箇所はないか。

・不要物や不審物はないか。

・気付き

(4) **点検方法**　生徒と教員の双方が、それぞれの視点で点検する。

７月と１２月は、事務室による点検を利用する。

(5) **点検報告**　共通のファイルに、各担当者が点検状況を入力する。

特に問題がなければ、〇を入力する。

担当クラス	掃除区域	担当者	１１月	１２月	1月	２月
３－５	例：3A講義室	鈴木	教室前方の鍵が閉まりにくい			
２－６	例：2F渡り廊下	山田	〇			
１－１	１－１HR					
	I棟１～３Ｆ西階段					
	音楽室・廊下					
	外庭⑪					
	テニスコート横トイレ					

【点検報告表の例】

3　**成果と今後の課題等**

生徒と教員が一緒に点検することで、いつもその場所を使用している生徒の気づきを学校安全の取組に反映させることができる。

一つのファイルに入力することで、課題のある箇所や改善された箇所などの情報を教職員全体で毎月共有することができる。

安全点検の実施や学校安全に対する意識を向上させるため、応急的な処置も含めて、課題のある箇所の改善に向けた取組を十分に進めていく必要がある。

別紙様式

取 組 名	宇部高自転車通学路点検ワークショップ2021		
特　　徴	地域の市民団体と連携した自転車通学に関する安全づくり		
学 校 名	山口県立宇部高等学校	期日	令和3年12月9日(木曜日)

1　ねらい

うべ交通まちづくり市民会議役員との連携で、実際に体験することにより自転車通行ルールの遵守及びマナーの改善を図るとともに、通学路の危険予測・安全マップを作成することで、登下校中の交通安全の意識を向上させる。

2　概要

(1) 事故の原因と自転車ネットワークについて講義

(2) 本校交通委員会の１・２年生が実走に参加

スタート前

実走中

車からの視点

(3) 実走後、振り返りシートを作成

全体会

グループ討議

安全マップづくり

(4) アンケート調査の実施

3　成果と今後の課題等

・GoPro動画で生徒の走行実態を確認すると、交差点での左右安全確認や、車道横断の際の安全確認、後方確認など自転車運転の基礎的な技術不足が多く見られた。また、自転車歩行者道で自転車位置の指定があっても守っていないことや歩行者が来るのが見えても止まると判断して進んでしまうなど、自転車通行のマナー・ルール違反に気付く声も上がった。
・通学路の道路が狭いため、歩道を走るべきか車道を走るべきか、運転技術に個人差があるため判断に迷う。
・生徒たち自らが交通ルールの遵守及びマナーの改善を呼びかける運動や自転車通学についての新たな提案を挙げていくことなど主体的な行動が求められる。
・地域の団体との協力で実現できたが、さらに発展させ、近隣の学校とも連携して登下校中の安全管理について考える場があればよりよい活動になる。

別紙様式

取 組 名	サマースクール（交通安全教室）		
特　　徴	専門家と連携した原付バイクの運転技術向上のための指導		
学 校 名	山口県立小野田工業高等学校（定時制）	期日	令和3年7月19日（月曜日）

1　ねらい

○　交通安全や交通マナーに対する意識を高める。

○　原付バイクや自転車の運転技術を向上させる。

2　概要

(1)DVDの視聴及び、交通安全についての講話

・二輪車の安全な乗り方
・二輪車運転時の適切な服装
・ヘルメットの正しい着用のしかた
・歩行者への配慮の在り方
・危険予測
・事故後の対応

講師による講話

(2)実技講習

・停車時の足のつき方
・スピードの出し方や下げ方
・適切なブレーキング
・スラローム
・一本橋（狭い道での走行）
・良い点
　→自分の運転技術を把握することができた。
・課題点
　→エンジン音が近隣の住民に迷惑となる可能性がある。

実技講習の様子

自転車のスラローム

ブレーキの操作

3　成果と今後の課題等

○　スロットルやブレーキの正しい使い方など、専門家の指導を受けながら実際にやってみることで、適切な運転技術を獲得することができた。

○　専門家の監督のもと自転車や原付バイクに乗車してのスラロームなどに取り組み、生徒が運転技術の向上を実感することができた。

○　本校定時制では原付バイクでの通学を許可している。交通事故の未然防止の在り方や事故後の対応の在り方などを知っているだけでなく、正しい行動ができるよう指導していくことが今後の課題である。

別紙様式

取 組 名	「防災訓練」及び「一日消防官」		
特　　徴	地域消防署と連携した「防災訓練」及び「一日消防官」		
学 校 名	山口県立下関北高等学校	期日	令和3年3月15日（月曜日）

1　ねらい

○　「防災訓練」と「一日消防官」を体験することにより、生徒が積極的に防災活動に関わるための知識の習得に努める。

○　防災活動や救助活動における隊での活動を通して、隊員の連携の大切さを理解する。

2　概要

(1)「一日消防官」委嘱状交付式（校長室）

・２年生９名、１年生１名　計１０名　（男子５名、女子５名）

【委嘱状交付式】

(2)「防災訓練」（体育館・通路）

・避難所設営訓練…大規模災害発生時を想定して、段ボールを使用した居住スペース（間仕切り）を作成。

・煙体験…スモークマシンの煙が充満するトンネル内を、ビニル袋に詰めた空気で呼吸を維持しながら脱出する訓練。

・消火器の使用方法について…講義受講。

【煙体験】

(3)公開訓練（グラウンド）

・指揮隊と消防隊は、防火衣上下・防火ヘルメット・手袋を、救急隊は、感染防止衣上下・保安用ヘルメット・ディスポ手袋を着用。マイクロバスと普通乗用車の正面衝突事故を想定し、多数傷病者発生時の対応訓練を実施。状況を上空からドローン撮影し、モニターで確認しながら訓練を進行。

・指揮隊（1名）…訓練開始申告補助

・消防隊（3名）…火災が発生した場合のポンプ車による消火補助

・救急隊（6名）…傷病者のトリアージ及びストレッチャーでの傷病者の救急車への搬送補助

【避難所設営訓練】

(4)記念撮影（グラウンド）

・全校生徒、教職員、消防署員１８０名と消防車両等を使用して、『１１９　北高』の文字を作り、上空のドローンより撮影。

【消火訓練の様子】

【トリアージの様子】

【記念撮影】

3　成果と今後の課題等

○　生徒は、ポンプ車による迫力ある放水を直接見ることができ、救助訓練の様子についてはドローンで撮影された映像を大型モニターで確認することができた。また、傷病者を乗せ、赤色灯がついた救急車がサイレンを鳴らしながら動き出す場面では、本番さながらの緊張感に包まれた。

○　一日消防官の生徒は、きびきびした対応の消防士に必死について活動し、貴重な体験ができた。なかでも、救急隊の女子生徒の積極的な活動が見られた。最後に、下関市の消防士となった前年度の本校卒業生が近況を話す場面を設けていただき、その活躍を垣間見ることができた。

○　今回は、春季火災予防行事の一環として、下関市豊浦西消防署及び豊北出張所の全面的な協力により、約３時間の日程で「防災訓練」及び「一日消防官」の行事が行われた。今後はコロナウイルス感染症対策をとりながら、大規模災害発生時を想定して、近隣の小中学校や地域住民とも連携して実施するなど、段階的に充実・強化させていく必要がある。

別紙様式

取 組 名	地域と連携した防災総合訓練		
特　　徴	自主防災組織を中心とした住民主体の訓練		
学 校 名	山口県立下関工科高等学校	期日	令和3年11月7日（日曜日）

1　ねらい

○　住民と地域の諸団体及び防災関係機関が協働し、総合的な防災訓練等を実施することで、地域ぐるみでの防災体制の確立を図る。

○　菊川断層を震源としたマグニチュード7.0の大地震を観測。道路やライフラインの寸断、建物倒壊等が発生。安岡地区も、地震による被害が甚大となり、更に余震が続くとの想定で実施。

2　概要

(1) 避難訓練（地震発生）安岡公民館行動へ避難
(2) 講演会（学校防災アドバイザー）
(3) 避難者受付訓練及び避難所開設訓練
(4) 救急法（ＡＥＤ取扱い訓練、応急担架作成）
(5) 水素ガスエネルギーの活用等について
(6) 炊き出し訓練（非常食の配布）

【安岡公民館へ】

【講演会の様子】

【避難所開設訓練の様子】

【応急担架訓練の様子】

◇参加機関及び参加者

・安岡自治会連合会、下関市北消防署、下関市安岡消防分団、下関警察署、下関市役所防災危機管理課、下関市立安岡中学校、山口県立下関工科高等学校ボランティア部

【炊き出し訓練の様子】

3　成果と今後の課題

○　今回の防災訓練は、地域や関係機関と連携し避難だけでなく、救急法や応急担架作成、避難所設営など、学校で行う避難訓練より高度な内容の訓練に参加することで、参加した生徒は貴重な体験と、防災意識の一層の高まりを感じることができた。

○　近年は、地球温暖化の影響により、身近な地域でも毎年のように自然災害が発生している。災害が発生した場合、避難後の対応など高校生の活動に期待がかかることが予想される。今後は、学校で実施する避難訓練や防災教室等においても内容の見直しや充実を図り、救急法や応急担架の作成、災害発生時のボランティア等を含めた取組を推進していきたい。

取 組 名	土砂災害に関する出前防災授業と本校周辺の視察		
特　徴	外部の専門家とのつながりを生かした防災教育の推進		
学 校 名	山口県立周南総合支援学校	期日	令和３年 12 月９日（木曜日）

1　ねらい

専門家と連携した出前防災教室を実施し、土砂災害のメカニズムを学ぶことや校舎周辺の施設の見回りをする活動を通して、児童生徒や教職員の安全・防災への意識を高める。

2　概要

(1)「土砂災害」に関する防災教室

・土砂災害についての講義
・模型を用いた土砂災害に関する実験
・土砂災害発生時の避難についての講義
・学校周辺のハザードマップの紹介と読み取り
　※オンラインで実施した。

各教室へ配信の様子

実験の様子

土砂災害発生の模型

(2) 本校周辺の視察

・本校周辺のハザードマップに「急傾斜地の崩壊」として指定されている箇所の視察。
・良い点
　→切土されている箇所は適切に施工されている。
　ハザードマップの指定箇所はほぼ竹林で、通常の樹木より根を張るため、土砂崩れは起こりにくい。
・気になる点
　→切土面に１か所だけ、切土面内の土が流出し、へこんでいるところがあった。
　→国道へつながる道沿いの側溝に、土砂が堆積している。

本校北側の法面

国道につながる道路沿いの斜面

土が流れ少しへこんでいる

3　成果と今後の課題等

○　防災教室は模型を用いた実験が分かりやすいとの意見が多かった。また、生徒には防災教室後、家族と自宅周辺のハザードマップを確認することを課題として出し、防災意識を高めることにつながった。

○　本校周辺の視察では、本校北側の法面の切土等が適切に施工されていることを確認した。改善箇所に関してはこれから該当箇所の修繕を関係機関につなぎ、対応したい。

別紙様式

取 組 名	交通安全指導及び安全マップ作成		
特　　徴	全校生徒で学校周辺を散策することにより危険箇所を点検し、安全マップを作成		
学 校 名	山口県立下関総合支援学校	期日	令和3年4月14日（水曜日）

1　ねらい

○　学校周辺を全校生徒で散策しながら、危険が潜んでいる箇所を点検し、通学や校外学習の際に安全が確保されるようにする。

○　学校周辺の安全マップを作成し、生徒昇降口に掲示することで、通学や校外学習の際などの事前指導で経路を確認することにより、生徒の安全確保及び危機管理意識の向上を図る。

2　概要

（1）取組の経緯

移転後初めての新入生を迎え、コロナ禍ではあるが、自力通学者が増えていることにも鑑みて、通常通り新学年のスタート直後に実施することにした。

（2）取組内容

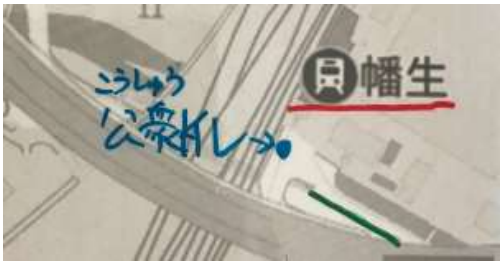
交通安全指導は、「幡生駅方面」、「東駅方面」、「戦場ヶ原公園方面」に分かれて、安全に留意してそれぞれ活動し、後日生徒会で安全マップを作成した。

（3）当日の流れ

9:55～10:15　「学校生活のきまり」の指導及び事前指導

10:15～11:50　交通安全指導

交通安全指導の様子



学校周辺の安全マップ

3　成果と今後の課題等

(1) 成果

危険箇所の確認に併せて、声掛け事案が多い場所等の注意喚起を促すこともでき、防犯上も大変有意義な取組であった。また、安全マップを作成するにあたり、前年度の取組を踏まえて、緊急の場合に駆け込む警察署を強調して表示する等、生徒の意見を多く取り入れることができた。傷みが早いためラミネート加工することで強度を増し、見やすくした。

(2) 課題

多くの取組の中で生徒を知ってもらい、コロナ禍にあっても地域との連携や協働がなされるよう、地域や関係団体との結びつきを図り、協力体制を整え、安心・安全な学校づくりを進めていくことが課題である。

別紙様式

取 組 名	自動車免許取得に関わるガイダンス及び交通安全教育		
特　　徴	地域の自動車学校との連携による交通安全教育		
学 校 名	山口県立萩総合支援学校（高等部）	期日	令和3年9月29日（水曜日）

1　ねらい

○　本校は総合支援学校であるが、近年は在学中もしくは卒業後すぐに自動車免許の取得を希望する生徒が増加している。自動車免許取得は、卒業後の就職及び生活の幅を広げるためにも必要と思われるが、自動車を運転することに対しての責任感の醸成や、交通社会の一員としての意識を高めるために、身近にある地域の自動車学校と連携することで、より効果的な交通安全教育をめざす。

2　概要

(1) 自動車免許取得について

・自動車運転免許の取得により、生活や趣味の幅が広がり、自己の人生を豊かにしていく
・自動車免許の種類
・取得のために必要な課程
・取得に必要な時間及び費用等

【地域の自動車学校による交通安全教室①】

【地域の自動車学校による交通安全教室②】

(2) 交通安全について

・安全のためのルールとその意味
・自動車を運転する上での意識の持ちかた及び安全について
・自転車乗車中及び歩行者の安全について
・安全意識を持ち続けるために
・身近な場所での事故の事例（画像・動画視聴）から考える

【画像・動画視聴】

【歩行者安全について】

【問題への取り組み】

3　成果と今後の課題等

○　生徒が実際に居住している地域の道路環境や交通状況をもとに講義が進み、内容も興味深く生徒は身近なこととしてとらえることができていた。そのため、今回受講した生徒一人ひとりが安全に対する意識を高めることができたと思われる。

○　今回は、生徒の障害特性及び感染症対策を考え、対象生徒は3年生及び1・2年生の受講希望者としたが、より多くの生徒が安全意識を共有できるよう、受講生徒の対象を拡充していく方向で進めていきたい。